



# CLEAN CENTER CSR REPORT 2022

株式会社 クリーンセンター CSR レポート 2022



 株式会社 クリーンセンター

福岡県北九州市門司区新門司3-67-9 フリーダイヤル 0120-023-326  
<https://clean-center.co.jp>



Kitakyushu  
SDGs  
株式会社クリーンセンター



福岡県  
SDGs  
株式会社クリーンセンター



見やすいユニバーサル  
デザインフォントを  
採用しています。

# CLEAN CENTER CSR REPORT 2022

株式会社 クリーンセンター CSR レポート 2022

## 目次

P1	目次・編集方針・会社概要
P2	トップメッセージ
P3-5	事業内容
P6	沿革
P7-8	CSR方針
P9-10	KPI
P11-12	マテリアルバランス
P13-14	E・環境の取り組み
P15-16	S・社会の取り組み
P17-18	G・ガバナンスの取り組み

## 編集方針

報告対象組織 株式会社クリーンセンター  
報告対象期間 2020年5月～2022年4月(※一部対象期間外を含む)  
発行時期 2023年4月  
参考ガイドライン 環境省「環境報告ガイドライン」(2018年版)  
SDGコンパス  
お問合せ先 株式会社クリーンセンター 担当:柴田  
〒800-0115 福岡県北九州市門司区新門司3-67-9  
フリーダイヤル:0120-023-326  
TEL:093-481-4523 FAX:093-481-4529  
メール:keiri@clean-center.co.jp

## 会社概要

商号	株式会社クリーンセンター
代表者	酒田 雅央
設立	1978年
資本金	1,000万円
社員数	16名(2023年4月現在)
所在地	福岡県北九州市門司区新門司3丁目67番地の9
加盟・参加団体	北九州商工会議所 北九州環境ビジネス推進会 公益社団法人 福岡県産業資源循環協会 NPO法人 九州環境カウンセラー協会 一般社団法人 廃棄物処理施設技術管理協会 ふくおか石膏ボードリサイクル研究会 一般社団法人 北九州市防災協会 北九州SDGsクラブ 公益社団法人 門司法人会 ふくおか3Rメンバーズ 九州環境エネルギー産業推進機構 (K-RIP)

## 大切なのは「対話」と「バランス」 社会の求めに応える企業へ

株式会社クリーンセンター 代表取締役 酒田 雅央

### ■社会が変わった2年間

『CSRレポート2022』は、当社のCSR(企業の社会的責任)の考え方や目標、実際の活動を一冊にまとめたものです。2020年度と2021年度の2年間を対象期間として報告させていただきます。

この2年間は私たちを取り巻く社会情勢が大きく変化しました。新型コロナウイルス感染症は収束することはなく、共生することが当たり前となりました。2022年2月にはロシア・ウクライナ戦争が勃発し、世界的なエネルギーの高騰、物価の上昇などの経済的打撃は増すばかりです。日本ではプラスチック資源循環法が施行され、私たちの回収・リサイクル段階だけでなく、設計・製造段階、販売・提供段階での取り組みも促進され、持続的な資源循環スキームがさらに構築されていくと感じています。

また、気候変動への対応も喫緊の課題となっており、全国各地で豪雨災害や猛暑・大雪被害も発生しています。企業への

脱炭素の取り組み要求も高まり、東証プライム市場では2022年4月より上場企業に対して温室効果ガス排出量などの気候関連情報開示が義務となりました。これにより、ますますESG投資も加速していくでしょう。

### ■大切なのは「対話」と「バランス」

当社でも、「物価高騰」「資源循環」「脱炭素」は重要課題と考えています。これらの課題に対応していくために大切にしたいのが、「対話」と「バランス」です。

SDGsに表現されているように、多くの社会課題が存在しています。今の社会の中でどの課題に取り組んでいくべきか、その課題へどのようなスタンスで向き合っていくべきか、それはお客様や社員、協力会社様や地域の皆様など、ステークホルダーの皆様との対話の中からこそ見えてくると感じています。ステークホルダーからいただく期待は、社会からの期待と同じです。日常の会話やレポート、Webサイト等の情報媒体を通じて、より深い領

域での対話を大切にしていきます。

また、社会課題と経営課題は表裏一体で、世界的な課題が私たちの経営に影響を与えていることを肌で感じた期間でもありました。その影響の範囲はESG(環境・社会・ガバナンス)で整理することができ、それぞれに相関関係もあります。よりバランスの取れた経営が重要であり、課題を分析し、ESGが三位一体となった活動の推進をさらに強めていきます。

### ■CSRで持続可能な未来へ

CSRは、社会の求めに応じていく力を鍛え発揮していくことだと考えています。当社は、廃棄物という観点から社会インフラを守る一員として、持続可能な企業と社会を実現できるようCSRの推進を図ってまいります。

このレポートを手にとってくださったあなた。是非ご一読いただき、当社への忌憚ないご意見をいただけますと幸いです。そこから、また、クリーンセンターは持続可能な未来へ歩みを進めていきます。



# TOP MESSAGE

## 収集・運搬事業



廃棄物の様々な種類・荷姿・量に対応する、各種車両を保有

産廃・特管産廃・一廃の収集運搬なら私たちにお任せください。固形のものはもちろん、液体や泥状のものなど多種多様な品目・荷姿・量の廃棄物に対応できるよう、豊富な車種をご用意しています。北部九州から中国地方まで広域エリアでの収集運搬に対応しております。

- POINT 1** 豊富な車種で多品目に対応
- POINT 2** 北部九州から中国地方まで広域エリアに対応
- POINT 3** 産廃・特管産廃・一廃も運搬可能

### 許可内容

#### 許可内容

	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	紙くず
産 廃	木くず	繊維くず	動植物性残渣	動物不要物	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等
	鋳さい	がれき類	動物のふん尿	動物の死体	ばいじん	13号廃棄物	
特 管 産 廃	廃油	廃酸	廃アルカリ	感染性廃棄物	廃PCB等	PCB汚染物	PCB処理物
	廃石綿等	有害廃油	有害鋳さい	有害ばいじん	有害燃え殻	有害汚泥	有害廃酸
一 廃	有害廃アルカリ		廃水銀等及びその処理物				
	可燃物・不燃物・資源物等(A類)						

#### 保有車種・コンテナ

車 両	危険物ローリー車	大型特殊吸引車	特殊吸引車
	大型ダンプ車	小型ダンプ車	アームロール車
	ユニック車	大型キャブオーバー	キャブオーバー
	バッカー車	小型貨物車	合計 22 台
コンテナ	8 m <sup>3</sup> コンテナ	6 m <sup>3</sup> コンテナ	3 m <sup>3</sup> コンテナ



## 処分事業



幅広い業種から排出される廃棄物に多彩な中間処理で多品目を処分する

合計6種類の中間処理方法で許可を取得しており、多品目の廃棄物処分が可能です。廃石膏ボードなど、複数の素材で構成されている処理が難しい廃棄物にも真正面から向き合い、手間を惜しまない前処理と専用設備で、できる限り資源としてリサイクルすることをポリシーとしています。少量の廃棄物でも受け入れを行っておりますので、まずは一度ご相談ください。

- POINT 1** 多彩な中間処理で多品目の処分可能
- POINT 2** 少量の廃棄物もお任せください
- POINT 3** アルカリ蓄電池や塗料などの処理困難物も対応可

### 処分方法



**破碎**  
搬入された廃棄物のうち、廃プラスチック類や紙くず、木くず、金属くずやがれき類などを破碎し、一定の大きさに揃えていきます。



**破碎(廃石膏ボード)**  
石膏ボードを紙と石膏に破碎分離し、リサイクル可能な状態にしています。解体材も新築端材も、どちらも対応可能です。



**圧縮**  
軟質系のプラスチックや破碎された可燃物をプレスし、圧縮します。圧縮した廃棄物はセメント工場等に出荷し、燃料としてリサイクルされます。



**中和**  
廃酸・廃アルカリは、中和槽に注入した後、pHに応じて酸またはアルカリを添加して中和を行います。冷却水として再利用するほか、焼却・乾燥処理を行います。



**焼却・乾燥**  
ロータリーキルン式の焼却炉で、汚泥・廃酸・廃アルカリを調整したものと廃油を処理します。燃え殻は、性状に応じて一部リサイクルします。



**油水分離**  
廃油は固形物を除去した後に油水分離処理を行い、良質な油と残渣に分けます。油(液分)・残渣ともに再生燃料原料としてリサイクル可能です。



モノもコトも余分なものは取り入れない生活を目標です!



取締役  
酒田 美智子

断捨離して余計なものは買わない!



取締役  
岡崎 尚文



## 船舶廃油処理・その他事業



### 海に近い北九州ならではの廃棄物や その他環境に関する取り組みにも応えあらゆる側面から未来を守る

国土交通省から許可を受け、国内外の船舶廃油処理を行っています。また、工場内の薬品タンクや側溝清掃等の化学洗浄、自社の環境目標達成に向けた講習講師なども行なっています。

海に面して港があり、工業地域も多く、環境未来都市である北九州の地域の未来を考え、「環境」をキーワードにあらゆる側面からサポート致します。

- POINT 1 国内外の船舶廃油の収集・運搬・処分が可能
- POINT 2 外国船舶に必要な通関手続きにも対応
- POINT 3 薬品タンクから側溝清掃まで目的に応じた化学洗浄も実施

#### 船舶廃油処理

船舶において生じた廃油は、適正な計画と国土交通省令で定めた基準に適合した処理施設での処理が必要です。当社は国土交通省より許可を受け、国内外船舶の特殊吸引車による廃油の収集運搬と自社施設での処分を行っております。また、外国船舶の場合には必要な通関手続きも実施致します。

船舶廃油処理許可番号：九運海船 第72号



#### 化学洗浄

工場内の薬品や油類などの各種タンク、敷地内の側溝や油水分離層の清掃など、施設メンテナンスに関する化学洗浄を行います。

##### 施工例

- ・重油・灯油などのタンク清掃(消防検査対応)
- ・薬品タンク洗浄
- ・油水分離槽の清掃・暗渠・管渠の目詰まり



#### その他

##### 環境アシスト

環境・廃棄物分野の目指すべきゴールに向けて、豊富な経験を持つ「環境アシスタント」がアシストします。



- 内容例 ・廃棄物関連法規・基礎知識  
・電子マニフェスト ・ゴミの減量化 など
- 実績業種 ・鉄鋼製造業 ・プラントエンジニアリング業  
・ハウスメーカー ・精密機械製造業 など

##### 太陽光発電

当社工場の屋根にて太陽光発電を実施しています。発電した電力は、再生可能エネルギーとして全量売電しています。



- 発電仕様 ・設置：2013年 ・出力：30.9 kWh  
・推定発電電力：32,629 kWh/年

## CAMPANY HISTORY 沿革

- 1971年 ----- 個人創業
- 1972年 ----- タンク塔槽化学洗浄事業開始
- 1978年 ----- 株式会社クリーンセンター 設立 資本金 4,000千円  
ロータリーキルン式焼却炉設置  
産業廃棄物処分業許可取得
- 1981年 ----- 燃料系リサイクル事業開始
- 1983年 ----- 廃プラスチック類処理設備設置
- 1988年 ----- 廃酸・廃アルカリ処理設備設置
- 1989年 ----- 環境関連資機材開発販売事業開始
- 1992年 ----- 産業廃棄物収集運搬業許可取得  
大型破碎設備設置  
資本金 10,000千円に増資  
特別管理産業廃棄物収集運搬・処分業許可取得
- 1993年 ----- 厚生労働省より「厚生省生活衛生局長感謝状」を受賞
- 1996年 ----- 破碎設備(移動式)設置  
(社)全国産業廃棄物連合会より「地方優良事業所表彰」を受賞  
一般貨物自動車運送事業許可取得 事業開始
- 1998年 ----- (社)全国産業廃棄物連合会より「功労者表彰」を受賞  
「福岡県知事表彰」を受賞
- 1999年 ----- 廃プラスチック類 リサイクル原料事業開始
- 2000年 ----- 北九州市より「平成11年度産業廃棄物処分業優良業者」を受賞
- 2002年 ----- 廃石膏ボードリサイクル設備設置
- 2003年 ----- 船舶廃油処理事業許可取得
- 2004年 ----- 環境省より「環境大臣地域環境保全功労者表彰」を受賞
- 2005年 ----- 北九州市より「平成16年度産業廃棄物処分業優良業者」を受賞 継続表彰  
圧縮設備設置
- 2006年 ----- 油水分離設備設置  
ISO14001:2004 (JISQ14001:2004) 認証取得  
優良性評価制度基準適合(北九州市・特管収運)福岡県内第1号  
チャイルドスポンサーシップに参加(現在も継続中)
- 2007年 ----- 優良性評価制度基準適合(北九州市・中間処理/福岡市・特管収運/北九州市・収運)  
北九州市処分業者第1号(以後、保有許可全てにおいて優良認定取得)
- 2009年 ----- (社)全国産業廃棄物連合会より「優良事業所表彰」を受賞  
ISO14001:2004 (JISQ14001:2004) 更新 認証取得  
産学官連携「ふくおか石膏ボードリサイクル研究会」設立  
木くず破碎設備追加設置
- 2010年 ----- 北九州市より「平成21年度産業廃棄物処分業優良業者」を受賞 継続表彰  
第1回こども茶会開催
- 2013年 ----- 太陽光発電事業開始
- 2014年 ----- (公社)全国産業廃棄物連合会より「功労者表彰」を受賞
- 2015年 ----- 「北九州市認定産業廃棄物処理業者」認定取得
- 2016年 ----- 圧縮設備更新
- 2018年 ----- ISO14001:2015 (JISQ14001:2015) 更新 認証取得  
環境配慮型重機導入
- 2019年 ----- 大型吸引車増車 船舶廃油処理事業拡大  
トラックスケール設置  
コーポレートロゴ刷新
- 2020年 ----- 石膏ボードリサイクル設備更新  
「北九州市認定産業廃棄物処理業者」認定取得(新基準適用初認定)
- 2021年 ----- 「北九州SDGs登録制度」第一次登録
- 2023年 ----- 「福岡県SDGs登録制度」第一次登録

環境  
Happy  
Action

食品ロスを減らすため手前取り実施!



業務Gr.統括リーダー  
前田 信行

1枚多く洋服を着て  
エアコン設定温度を  
マイナス2℃にする!



管理Gr.リーダー  
柴田 かおり

## 社是 社会への貢献 地域との調和

創業当初から掲げる社是「社会への貢献」と「地域との調和」は、今の時代で言うと、  
地域課題を解決しサステナブルな社会を実現していくことです。

未来を見据えたVisionとCSRを戦略的に実行し、社会課題解決と新たな価値の創造を目指します。

## VISION 廃棄物処理のコンビニへ

今や社会インフラの一部であるコンビニは、たくさんの生活必需品が販売され、私たちの生活を豊かにしています。私たちの廃棄物処理も同様に、あらゆるものが廃棄される社会の中で、当たり前にも前から回収され適正に処理されていくスキームが構築されており、社会インフラの重要な一部となっています。少量での回収や受入のノウハウと多品目の廃棄物処理ができる設備を駆使し、社員が一丸となって目の前の**廃棄物の適正処理と資源循環**に励みます。お客様や地域行政、同じ業界のメンバーとのパートナーシップで、**地域資源循環システムの構築や廃棄物処理業界全体の発展**を目指していきます。

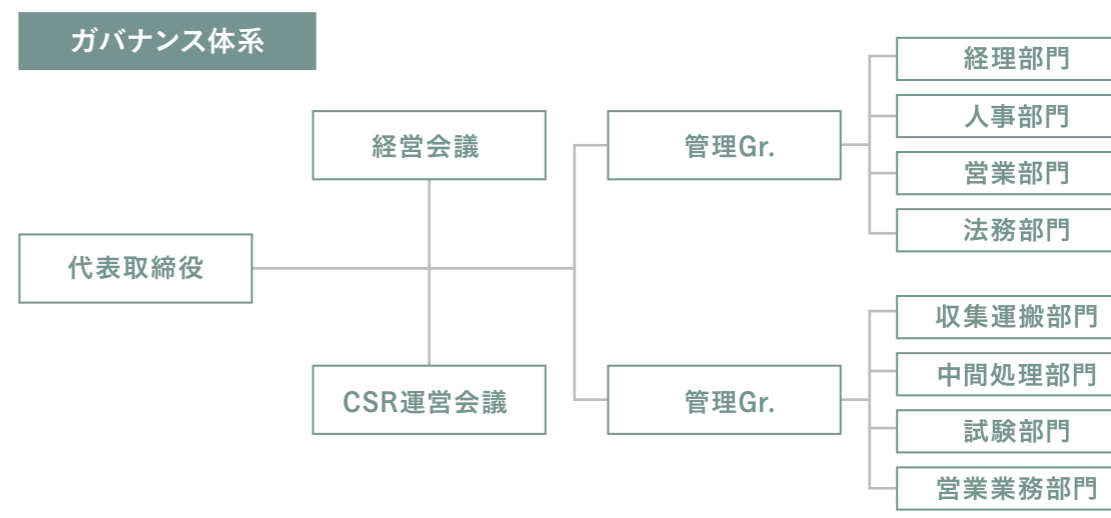
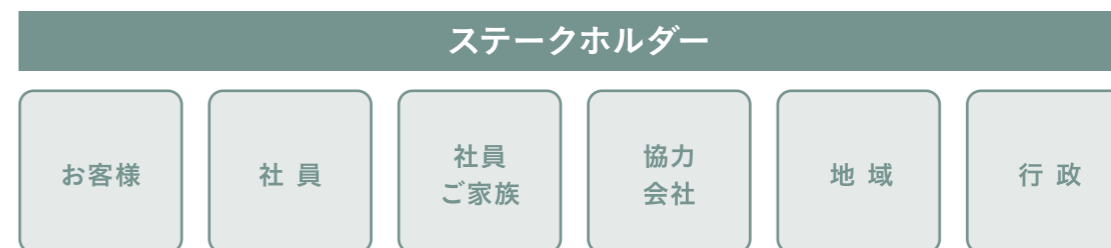
私たちクリーンセンターは、少量・多品目の廃棄物の適正・リサイクル処理と、廃棄物処理の観点からレジリエントなまちづくりに貢献する「廃棄物のコンビニ」を目指します。そして、**地域の持続可能性向上に向けて真の豊かさが溢れる社会の形成**に貢献していきます。



## CSR

持続可能な社会の実現には、持続可能な企業になることが重要です。  
当社を取り巻く環境やステークホルダーの声を分析し、  
ESGの側面で重要項目を掲げCSRを推進していきます。  
また、SDGsのGOALとも関連づけ、社会課題解決を目指していきます。

	重点項目	関連するSDGs・GOAL
<b>E</b> 環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクルの推進</li> <li>・有害物資の排出抑制</li> <li>・資源の適正使用</li> </ul>	
<b>S</b> 社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な職場環境の実現</li> <li>・地域社会との連携</li> </ul>	
<b>G</b> 社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部コミュニケーション</li> <li>・外部コミュニケーション</li> <li>・人財開発</li> </ul>	



エコバッグをいつも携帯していつでも使えるようにする！



業務Gr.リーダー 芳村 大輔

冷蔵庫を開けたらすぐ閉める！



業務Gr.リーダー 宮城 和司

重点項目	KPI	関連するSDGs・GOAL	取組内容	2020年度			2021年度			2022年度 目標	2023年度 目標	2024年度 目標
				目標	結果	評価	目標	結果	評価			
E 環境	年間CO <sub>2</sub> 排出量	7 気候変動 12 消費生活	(1) 車両運転時のエコドライブ実施	2019年比 1%削減	1.2%削減	◎	2019年比 2%削減	2.3%削減	○	2019年比 3%削減	年間収集運搬量当たり 収集運搬事業CO <sub>2</sub> 排出量 2021年比 1%削減 年間処分量当たり 処分事業CO <sub>2</sub> 排出量 2021年比 1%削減	年間収集運搬量当たり 収集運搬事業CO <sub>2</sub> 排出量 2021年比 2%削減 年間処分量当たり 処分事業CO <sub>2</sub> 排出量 2021年比 2%削減
			(2) 処理作業の効率化									
			(3) 電力使用量の削減									
	平成27年度基準 低燃費車導入率	7 気候変動 12 消費生活	(1) 車両更新時に検討・導入	45%	45.0%	○	47%	47.6%	○	50%	52%	55%
			(2) 車両購入がない場合は現状維持									
	平成17年度基準 低排ガス車導入率	3 気候変動 11 産業・貿易 12 消費生活	(1) 車両更新時に検討・導入	55%	55.0%	○	57%	57.1%	○	60%	62%	65%
			(2) 車両購入がない場合は現状維持									
グリーン購入法 適合製品比率	12 消費生活	(1) 適合文房具類の使用	73%	76.6%	○	75%	78.4%	○	78%	80%	82%	
		(2) 適合制服・作業服の使用										
電子manifesto 新規取引先件数	9 気候変動 11 産業・貿易 12 消費生活 17 持続可能な消費生活	(1) 取引先への勧奨	3件	19件	◎	3件	8件	◎	5件	5件	5件	
		(2) 取引先での講習会実施										
		(3) 電子manifestoインストラクタ活動継続										
埋立最終処分量削減率	9 気候変動 11 産業・貿易 12 消費生活	(1) 処理工程・処理作業の見直し	2019年比 1%削減	1.4%削減	◎	2019年比 2%削減	2.0%削減	○	2019年比 3%削減	リサイクル率 2021年比 1%向上	リサイクル率 2021年比 2%向上	
		(2) 各種手順書の見直し										
廃油のリサイクル率	9 気候変動 12 消費生活	(1) 選別精度の見直し	2019年比 1%向上	1%向上	○	2019年比 2%向上	38.5%向上	◎	2019年比 3%向上	前年比 1%向上	前年比 1%向上	
		(2) 手順書の見直し										
S 社会	年間 地域活動実施回数	4 質の高い教育をみんなに 17 持続可能な消費生活	(1) こどもお茶会の開催	3回	3回	○	3回以上	4回	◎	3回以上	10回以上	10回以上
			(2) 地域清掃活動の実施									
			(3) その他地域活動の実施									
労働災害発件数	3 気候変動	(1) 労働安全衛生教育の実施	0件	0件	○	0件	0件	○	0件	0件	0件	
		(2) 安全・環境パトロールの実施										
		(3) ヒヤリハット報告書の活用										
		(4) ドライブレコーダーの活用										
G 社会	優良評価制度による 情報公開	17 持続可能な消費生活	(1) 確実な情報公開実施	情報更新 100%	情報更新 100%	○	情報更新 100%	情報更新 100%	○	情報更新 100%	情報更新 100%	情報更新 100%
			(2) 複数担当者によるチェック									
			(3) チェックリストによる管理									
検定合格者数	4 質の高い教育をみんなに 8 質の高い教育をみんなに	(1) 北九州市環境首都検定の受検	環境首都検定: 10名	環境首都検定: 10名	△	環境首都検定: 11名	環境首都検定: 16名	○	環境首都検定: 12名	環境首都検定: 17名	環境首都検定: 18名	
		(2) CSR 検定試験の受検	CSR検定:8名	CSR検定:6名		CSR検定:9名	CSR検定:6名		CSR検定:10名	CSR検定:8名	CSR検定:9名	
		(3) CSR レポートを活用した社内勉強会の開催等										
改善提案件数	8 質の高い教育をみんなに	(1) 運営方法の見直し	年間15件	4件	△	年間20件	3件	△	年間25件	-	-	
		(2) 各部門における提案奨励										
		(3) 実行後の効果測定実施										

環境  
Happy  
Action

必要以外のコン  
セントは抜く!



業務Gr.  
赤金 靖彦

最寄りのバス停  
で乗降せずひと  
駅歩く!



業務Gr.  
蝶野 忠幸

## INPUT

### ■ エネルギー等

項目	2020年度	2021年度
電気	33828.0 kWh	38546.0 kWh
軽油	44196.8 ℓ	44828.8 ℓ
ガソリン	3713.6 ℓ	3329.4 ℓ
灯油	5144.0 ℓ	4312.0 ℓ
水	370.0 m <sup>3</sup>	519.0 m <sup>3</sup>

### ■ 主な受入廃棄物

廃棄物の種類	2020年度	2021年度
廃プラスチック類	483.71 t	583.91 t
ガラスくず	911.90 t	850.20 t
木くず	216.80 t	202.40 t
紙くず	68.50 t	45.80 t
金属くず	252.22 t	241.60 t
繊維くず	40.10 t	32.71 t
ゴムくず	0 t	0 t
がれき類	270.60 t	285.50 t
汚泥	572.32 t	618.64 t
廃油	894.19 t	883.22 t
廃酸	24.91 t	11.73 t
廃アルカリ	61.16 t	61.33 t

## 収集・運搬 事業

### 廃棄物運搬量

2020年度	
一廃	249.37 t
産廃	5545.34 t

2021年度	
一廃	226.69 t
産廃	5224.90 t

## 処分 事業

## 船舶 廃油処理・ その他 事業

## OUTPUT

### ■ CO<sub>2</sub> 排出量<sup>※1</sup>

2020年度	2021年度
147.97 t-CO <sub>2</sub>	152.58 t-CO <sub>2</sub>

### ■ 太陽光発電量<sup>※2</sup>

2020年度	2021年度
34125.3 kWh	33764.2 kWh

### ■ 製品原料

項目	2020年度	2021年度
再生燃料原料	298.94 t	293.82 t
再生紙原料	72.55 t	97.47 t
再生プラ原料	9.87 t	18.62 t
製鋼原料	252.22 t	241.60 t

### ■ 排出廃棄物

廃棄物の種類	2020年度	2021年度
廃プラスチック類	533.23 t	544.99 t
木くず	212.23 t	201.47 t
ガラスくず	418.68 t	389.83 t
がれき類	392.10 t	428.86 t
燃え殻・汚泥	413.92 t	367.87 t
廃油	453.98 t	588.78 t
石膏	370.05 t	370.86 t

### ■ 産業廃棄物リサイクル率<sup>※3</sup>

2020年度	2021年度
64.9 %	67.0 %

※1: エネルギー等起源のCO<sub>2</sub>排出量を対象とし、「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」にて公表されている情報で算定

※2: 太陽光発電量は売電を集計

※3: リサイクル率=サーマルリサイクル量+マテリアルリサイクル量/総排出量



電気をこまめに  
消す!



業務Gr.  
杉本 圭一

節水に気を  
付ける!



業務Gr.  
飯水 栄二



## E

# 環境の取り組み

廃棄物処理を中心とした事業展開を行うクリーンセンターにとって、環境は最重要課題です。

適正処理を前提に時代にあった資源循環と環境影響の低減を両立し、  
持続可能な環境づくりに貢献します。

## 1 ISO14001による環境マネジメントの実施

2006年からISO14001に基づく環境マネジメントを実施しています。社会の変化と事業活動における環境影響を捉えて設定した環境方針に基づき、環境目標(KPIの「E・環境」と同様)を立てて日々活動を行い、定期的なチェックと改善を行っています。長年取り組むことにより、経営と一体となった当社ならではの環境マネジメントを確立しています。

### 環境方針

#### 基本理念

株式会社クリーンセンターは、産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬・処理、一般廃棄物収集運搬、船舶廃油処理、一般貨物運送事業の各業務を通じ、社会への貢献と『地域との調和』を实践するため、事業活動を展開しています。

環境未来都市北九州で廃棄物を取り扱う企業として、地球環境と当社事業活動との深い関わりを認識し、豊かな自然との共存と、地域社会との調和とを目指し、北九州市が環境基本計画に掲げる基本理念と三つの柱「共に生き、共に創る」、「環境で経済を拓く」、「都市の持続可能性を高める」の政策目標達成に寄与するとともに、環境マネジメント活動を推進することが経営の最重要課題の一つと位置づけ、以下の「活動指針」を定めます。

#### 活動指針

- 1.当社が関わる法規制及び当社が受け入れを決めたその他要求事項を順守します。
- 2.当社の事業活動が環境に与える影響を認識して、環境マネジメントシステムを推進し、継続的な改善を実施します。
- 3.事業活動を通じて汚染の防止に努め、技術的・経済的に可能な限り3Rを推進し、最終処分量を削減、環境負荷の低減に努めます。
- 4.技術的・経済的に可能な範囲で事業活動の省エネルギー化を推進し、低炭素化社会の構築へ寄与します。
- 5.労働災害防止に積極的に取組み、地域環境保全の担い手である社員を守ります。
- 6.北九州市SDGs登録制度の活動方針に則り道路サポーターとして周辺道路の美化に努めます。
- 7.社員一人一人の環境意識・社会意識の向上のため機会を設け、あらゆる場面で社員全員がSDGs達成を意識できるよう努めます。

2022年3月24日 株式会社クリーンセンター 代表取締役 酒田 雅央

## 2 CO2排出量削減に向けて



#### 電気

処分作業の手順書を改訂し、空運転がなく集中して機械稼働を行い処分を進めるようにしています。効率的な稼働で無駄のない電力使用を行っています。

#### 軽油

収集運搬では、エコドライブと車両ごとの燃費管理を継続して行っています。燃費に気をつけた運行は、事故防止にもつながっています。

## 3 リサイクルに向けた分別の徹底



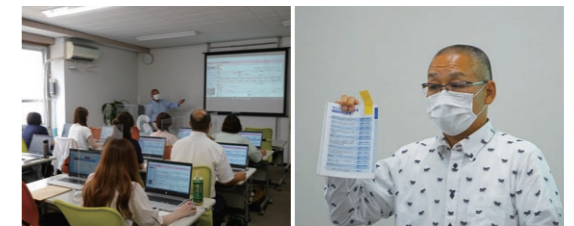
廃棄物を資源として活用していくためには、品目ごとに分別することが重要です。当社では、受け入れた廃棄物をまず分別することに力を入れています。処理の流れを熟知したスタッフが一つ一つ丁寧に分別していくことで、より多くの資源を取り出して中間処理を進めています。また、定期的な排出されるお客様には、廃棄物の排出状況をフィードバックし連携することで、お客様で分別強化いただくケースも増えています。

## 4 廃油残渣のリサイクルフロー確立



当社で受け入れた廃油は、油水分離の中間処理を施し、取り出した油は再生燃料としてリサイクルしています。これまで、油水分離後に残った残渣は単純な焼却処理を行っていましたが、焼却時の廃熱を使って発電されるサーマルリサイクルフローを確立しました。これにより2021年度のリサイクル量は2019年比で38.5%向上しました。今後も積極的にリサイクルを推進していきます。

## 5 電子 manifests の普及促進



産業廃棄物の排出・処理状況を管理する manifests の電子ソフト普及を積極的に進めています。2020～2021年度はコロナ禍ではありましたが、北部九州エリアを中心に開催された電子 manifests 講習にて合計13回講師を務めました。当社取引における電子 manifests 利用も8件増加し、全体の6割以上を電子化できています。DX化の一つとしても電子 manifests の利用が増えるよう継続して参ります。

環境  
Happy  
Action

リサイクル製品を積極的に購入する!



業務Gr.  
石田 達典

買い物に行くときはエコバッグを持参!



業務Gr.  
松本 純一





S

## 社会の取り組み

会社、地域、世界。

わたしたちは広く社会の一員として活動しています。

安全で安心して暮らすことができる社会をステークホルダーと共に構築していきます。

## 1 「北九州市道路サポーター」としての地域清掃実施

長年実施している地域清掃活動において、2021年9月からは「北九州市道路サポーター制度」に登録し、道路サポーターとして活動を実施しています。毎月実施している地域清掃活動は、会社周辺道路と地区の公園周辺道路を中心に歩道のゴミ拾いや雑草の草むしりを行い、きれいな道路の維持管理に貢献しています。

毎日使用している道路と事業を行っている北九州への感謝の気持ちを込めて、社員全員で行っています。これからも継続して実施していきます。



会社周辺道路の清掃活動



近隣にある新門司公園周辺の清掃活動も実施

### 「北九州市道路サポーター制度」とは？

道路への愛着・環境美化への意識向上と裾野を拡大し、市民と行政の協働による美しいまちづくりにつなげていくことを目的として、2005年に創設された制度です。北九州市が維持管理する道路で地域の方が実施する道路清掃・美化などのボランティア活動について、

- ①10名以上の団体 ②活動延長が100m以上 ③年3回以上の活動と3つの活動内容を実施する団体は「道路サポーター」として登録が可能で、清掃用具の支給・貸与やゴミの回収、花苗の支給などの支援を受けることができます。

2022年2月時点で237団体が登録されています。

## 2 労働安全衛生活動

### ヒヤリ・ハット活動

一人ひとりの安全意識を高め事故を予防するために、ヒヤリ・ハット活動を行っています。作業中に感じた「ヒヤッとしたこと」「ハッとしたこと」を記録し、重大事故に繋がりそうなものや複数の社員が同じような現象を感じたものに対して、「どうしたらヒヤリ・ハットを無くせるか」を検討しています。そして、改善を施すことで、より安全な職場の形成に活かしています。

### ヒヤリ・ハット改善事例

#### ヒヤリ

トラックの荷台に昇る際に足を掛ける場所が思った以上に高い位置にあり滑りそうになった



トラックのあおりに設置できる専用のはしごを購入し車両に常備無理のない高さに一段目があるため安全性が向上した

### 資格取得・社外研修の受講

安全に作業を進めていくためには、専門的な知識や安全教育をアップデートしていくことも重要です。定期的に労働安全衛生に関する社外研修の受講や社員の資格取得を奨励しています。

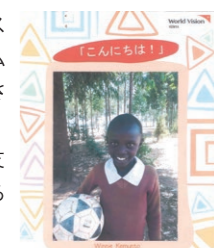


## 3 世界の子どもを支援する「チャイルドスポンサーシップ」に参加

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンが実施している国際的なプログラム「チャイルドスポンサーシップ」に2006年から継続して参加しています。当社の売上の一部を支援金としてプログラムに寄付しており、保健や健康、教育や水衛生など、その国々の子どもたちを取り巻く環境改善に活用されます。

直接支援する子どもとつながりを持つことが特徴で、2019年度からはケニアで暮らす女の子を支援しています。彼女の成長ぶりは定期的に届く動画レポートで感じており、笑顔で暮らす姿を見られるのを楽しみにしています。

仕事を通じて地域課題だけでなく、世界の社会課題解決にも貢献していきます。



©World Vision

環境  
Happy  
Action

捨てることにならないよう食品は必要以上に買わない!



業務Gr.リーダー  
山田 哲也

アイドリングストップで排気ガス低減に努める!



業務Gr.  
天本 一郎



## G ガバナンスの取り組み

持続可能な社会をつくっていくためには、持続可能な組織になることが欠かせません。  
社会のニーズに応え働きがいと経済成長を創造していく、  
笑顔あふれる組織を目指します。

## 1 北九州SDGs登録制度 第一次登録

「北九州SDGs登録制度」は、SDGsの達成に寄与する企業等の取組内容等を「見える化」し、地域のSDGsの取組みの誘発・加速を図ることを目的とした制度です。SDGsに取り組む事業者を登録することで、多くの企業等が脱炭素の視点を経営に取り入れ、持続可能な成長に繋げ、それを持って地域の自律的好循環の実現を目指しています。

当社では、第1期登録事業者として、2021年11月に登録されました。長年継続してきたCSR活動をベースに取組状況を精査し、SDGs達成に向けた取組方針と重点的な取組3つを定めて宣言しました。

SDGsはパートナーシップで達成を目指していくものです。私たちが暮らし、ビジネスを行う北九州がより良い地域となるよう、企業市民の一員として取り組みを引き続き進めていきます。

### SDGs達成に向けた取組方針

当社の企業理念「社会への貢献・地域との調和」は、地域課題を解決しサステナブルな社会を実現していくことです。2030年には「安心・安全の廃棄物処理が確保された持続可能な地域」の実現を目指し、戦略的な事業及びCSR推進によるSDGsへの貢献を実践していきます。



### SDGs達成に向けた重点的な取組

- 経済** 埋立最終処分量の削減  
KPI: 埋立最終処分量削減率 目標値: 2020年比3%削減
- 社会** 地域や業界団体などパートナーシップ強化による地域社会活性化  
KPI: 年間地域活動実施回数 目標値: 3回以上
- 環境** 電子マニフェストなどITを活用した廃棄物適正処理の推進  
KPI: 電子マニフェスト利用率 目標値: 70%

## 2 Webサイト リニューアル

当社に関するあらゆる情報を皆様に素早く・わかりやすくお伝えするために、Webサイトのリニューアルを行いました。

これを機に改めて自社の情報の見直しを行い、展開している事業や会社概要、CSRといった会社・事業の情報、当社の働き方や福利厚生、実際の先輩社員の声、処分場や収集運搬の営業日に関するお知らせ、日々のグリーンセンターをお伝えする社員ブログなども更新しています。

今後も積極的に情報発信を行い、当社の「今」を皆様に感じていただければと思います。是非ご覧ください。



Webサイトはこちら



## 3 業務改善提案制度の運用

廃棄物の収集運搬や処分、船舶廃油処理や事業に伴う事務作業など、あらゆる現場で社員が活躍しています。各現場で行っている業務の改善を社員が主体的にスピード良く実行できるよう、業務改善提案制度を設けています。2020年度・2021年度の提案件数は少なかったですが、日々の業務におけるちょっとした不具合から車両導入という大きな改善まで実施しました。

今後は提案制度としての運用ではなく、日常的に現場の声を反映した改善を行い、社員が一丸となって業務を遂行してお客様の期待に応えるサービスが提供できるよう努めていきます。

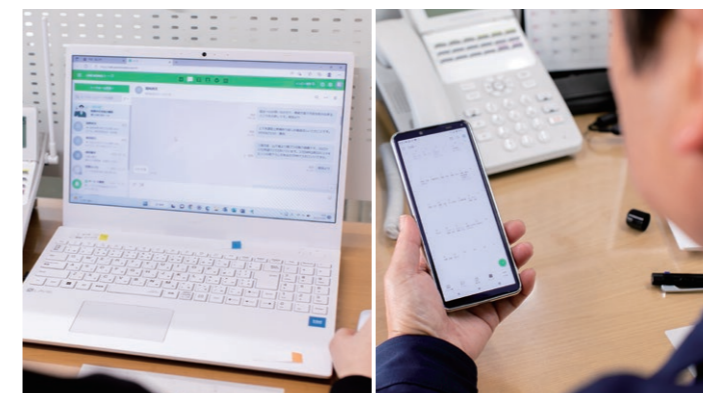
### 業務改善事例

**現状** 建築現場からの廃棄物回収の際に、道幅や敷地が狭い現場では小型車で伺い手積みするので時間もかかる。

**改善** 小型のユニック車を導入。狭い現場でもクレーンを使ってスピーディーに回収が可能に!



## 4 DX化の推進



業務効率や生産性の高い職場環境をつくり働き方改革を推進していくことを目的に、DX(デジタルトランスフォーメーション)化を進めています。

まず取り組んだのは社内コミュニケーションのDX化です。社内SNSを導入し、スケジュールや連絡事項などの情報を共有することで、コミュニケーションのスピードと質も向上しました。また、業務プロセス上で紙媒体を使用している箇所からDX化の検討を進めており、今一度業務目的を踏まえた上で最適な運用方法を検討しています。

今までの当たり前を疑いながら精査していくことで、今までにない価値を創造していきます。

環境  
Happy  
Action

週末は公共交通機関  
を利用してCO2を  
削減!



業務Gr.  
竹中 敏智

自分が食事する  
ときは必ずMy箸を  
持参する!



業務Gr.  
西田 敬